

サービスマーケティングで学んだこと

社会福祉学部社会福祉学科 2年 山田 隼大

活動先：親子の広場 あんだんて

クラス：野尻 紀恵 先生

1. SL を通しての自分の気づきと成長

私は SL が第一希望で入って、不安なこともあったが本当に良かったと思っている。なぜならば、そこで自分のことがわかったからだ。私は普段、人の前で話すのも苦手でありリーダーシップも無く、発言や意見をすることもあまりなかった。しかし、活動先が決まり企画や計画の打ち合わせしていく内に、自分は発言や意見がこんなにもできるのだと気づいた。

夏休みの活動では反省点が多く挙げられる。まずは、初めに困った点は子ども達とのコミュニケーションだ。私は子供が好きではあるが接し方がわからず最初の日には上手く子ども達と接することができず指示も上手くできなかった。その他にも、事前準備が上手く出来なかったため子ども達を困らせてしまった。心の中に何とかなるといふ「甘え」があったのだと、今でも思う。この反省点から多くのことを学んだ。一つ目は責任を持つということに改めて学んだ。二つ目は簡単のようで難しい活動の予測が大切であるということだ。活動の予測が私は一番難しかったと思う。なぜならば、多くの子ども達をまとめつつ活動で起こりうる危険や準備で生じる不備をすべて考えていかなければならないからだ。しかし、この予測は事前に考えていけば防げていたのでやはり自分に甘えがあったのだと思う。三つ目は、みんなで支えあっているということ。支え合うということはとても大切である。それは SL のパートナーであったり NPO の方々であったりボランティアの人であったりと多岐にわたる。ここで私は、みんながいなかったら私は何もできずに迷ったままでいたろう。ここで繋がりが如何に大切であるかわかった。なので、今でも NPO の方々やボランティアの方や SL のパートナーには今でも、感謝しておりお礼を述べたい。

一年を通して私は少し変わったと自覚している。発言するのがこんなにも楽しいということや子ども達の接し方や大人との接し方など多くを学びそれを身につけたと思う。その他にも前に立って話したりすることが恥ずかしくなくなったり伝わりやすいように工夫するにはどうすればよいのかなどいろんなことが学べた。一年前の私だったら考えられないような行動も今ならできると思う。しかし、まだ荒削りなので改善点は多く存在しており、それらの改善点はこれからも意識して直していこうと思う。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私達がお世話になった親子の広場「あんだんて」は地域に無くてはならない存在ということが良くわかった。6日間しか活動はしていなかったが、子ども達はもちろんのこと、親同士が集まり仲良く過ごしていることがわかった。仲間同士で話し合うことによって繋

がりが増えていく。また、気軽に足を運べるようになっているので子育てに困った人もすぐに来ることができ、子育てに対しても関心をもてるようになると思う。その他にもボランティアの人達が、現在ではあまり子どもが行わない将棋などを教えてくれたりするので、昔ながらの遊びを伝えるという意味でもこのような集まりが必要だと思う。

現在でも深刻な子育ての分野もこのような場所が増えていけば、親に対する子育てのプレッシャーやストレスを和らげることができるので、子どもに対しての虐待・ネグレクトが減ると思う。このような場所が増えていき講習会や話し合える場が増えれば良いと思った。

しかし、これらは関心があってこそ成り立つものなので問題であるということを知ってもらわなければならない。だからこそ、私達はそれらの問題に関心を持ち訴えていき、社会に伝えていかなければいけないと思う。一人が訴えても社会には通じないので、一人一人が関心を持つことが解決への一歩だと私は思う。

3. 来年度、SLを履修する学生へのメッセージ

サービスマニタリングは、サークルやボランティアとは異なることが学べる。その他にも自分の可能生を見出すこともできるのでやる価値は十分にある。だからこそ、活動を始める前に目的を明確にして欲しいと思う。目的が無ければこの活動の半分は無駄になってしまうと思うのでしっかり目的を持ってほしい。後は、友達がいるから自分もそこにするなどの安易な気持ちは持たないで欲しい。不安なこともあると思うがどうか前向きでいてほしい。失敗は別に悪いことではない。なぜならば、失敗して初めて得られるものもあるからである。その失敗を気にせずに次に生かせばいいのである。

あくまで児童系の施設のアドバイスになるかもしれないが以下のことは守ってほしい。一つ目は事前準備と起こりうることをしっかり予測すること。二つ目は子ども達とのコミュニケーションは積極的に行う。子ども達は、初めは学生に対して接し方がわからないので学生から積極的に関わったほうがすぐに打ち解けられる。積極的に接することが大事である。また、言動も工夫すると伝わりやすいので積極的に使用すると良い。三つ目はパートナーと役割をしっかりと話し合っておく、相手が異性でも同性でも面倒と思わず話し合っほしい。最後は子ども対しての注意の仕方だ。施設の利用者だからといって気にすることはなく、しっかり注意すれば良いのである。また、ちょっとした喧嘩も学生が介入してすべて解決するのではなく解決の糸口を与えれば子ども達は自分で解決してしまうのでそこまで気にすることはない。

最後に一言、活動が始まってしまうと準備する時間がなくなってしまうので活動が始まる前にしっかりと準備しておくことが必要である。また、ギリギリではなくある程度、多めに準備しておくことが防げるので多めに準備してパートナーと話し合っおくことが必要だと思う。常に自分は支えられており、決して一人ではないので不安になったら先生や施設の人やパートナーと話すことが必要だ。一人で抱え込んでも解決しないので話し合うこと良い。

不安や失敗は付き物なのでぶっかってきてください。多くのことが学べます。だから頑張ってきてください。心から応援しています。